

イスラエルはテロ国家である はじめに

イスラエル国家は、イルグン、レヒ、ハガナーといったシオニスト民兵による暴力的なキャンペーンを通じて誕生し、現代の非国家主体に適用される基準で判断した場合、現代のテロ組織の戦術を反映する血塗られた遺産を背負っています。初期の暗殺や虐殺から、現代の外交施設への空爆や政治的要人の標的殺害に至るまで、イスラエルの行動は、政治的目的のために威嚇、強制、追放を意図した一貫した暴力のパターンを示しています。もし非国家主体によって行われた場合、これらの行為—1世紀にわたるもの—は間違いなくテロと分類されるでしょう。しかし、この残忍な歴史に根ざすイスラエルは、パレスチナの女性、子供、援助工作者、ジャーナリストを、しばしば証拠なしにテロリストと烙印を押し、その侵略を正当化しています。このエッセイでは、テロを定義し、イスラエルの暴力行為を犠牲者の詳細とテロの分類とともに記録し、テロリストの烙印の偽善を暴露し、イスラエルの行動が、その建国から2024年の外交目標への攻撃まで、テロ国家としての特徴を示していると論じます。

第1章：テロの定義

グローバル・テロリズム・データベース（GTD）によれば、テロとは「非国家主体による、恐れ、強制、または威嚇を通じて政治的、経済的、宗教的、または社会的目標を達成するための、違法な力と暴力の脅威または実際の使用であり、通常は民間人または非戦闘員を標的にする」と定義されます。主要要素には、意図（恐れによる強制）、標的（民間人、インフラ、象徴的人物）、および主体（非国家主体）が含まれます。国家の行動は通常、国際人道法（例：ジュネーブ条約）に基づいて判断されますが、このテロの枠組みを仮に国家の行動に適用することで、それらがテロの戦術と一致するかどうかになります。指標には、民間人への意図的な危害、不均衡な力の使用、または人口を威嚇または追放する行動が含まれます。イスラエルとそのシオニストの前身に対してこのレンズを適用すると、国家樹立、領土支配、または地域支配を確保するための暴力戦略が、アルカイダやISISのようなグループが使用する戦術に似ていることが明らかになります。この定義は、イスラエルの行動をテロとして分析し、非国家主体と同じ基準に照らして評価する枠組みを提供します。

第2章：イスラエルとその前身によるテロ行為の時系列リスト

以下は、シオニストグループ（イルグン、レヒ、ハガナー）およびイスラエル国家による行動の包括的かつ時系列のリストであり、2024年のダマスカスのイラン大使館への攻撃やテヘランでのイスMAIL・ハニヤの暗殺を含み、犠牲者の詳細と現代の基準に基づくテロ分類の説明を記載しています。各行為は非国家主体によって行われたと仮定して評価され、歴史的記録、国連報告、信頼できるメディアソースから引用しています。

- 1924年6月：ヤコブ・イスラエル・デ・ハーン暗殺（エルサレム）

- **詳細:** ハガナーは、イツハク・ベン・ツヴィの命令の下、反シオニストのオランダ系ユダヤ人ヤコブ・イスラエル・デ・ハーンを彼の政治活動とアラブとの接触のためにエルサレムで暗殺し、反対意見を抑圧することを目的としました。
- **犠牲者:** 1人死亡。
- **出典:** パレスチナ研究学会。
- **テロの分類:** 政治的信念のために民間人を暗殺し、反対者を威嚇することは、赤い旅団の標的殺害に似たテロであり、現代の定義に適合するイデオロギー的標的ですが。
- **1944年11月：モイン卿暗殺（カイロ）**
 - **詳細:** レヒは、中東担当英国国務大臣モイン卿とその運転手をカイロで暗殺し、ユダヤ人の移民と国家樹立の障害と見なしました。
 - **犠牲者:** 2人死亡。
 - **出典:** モイン卿暗殺。
 - **テロの分類:** 植民地勢力を強制するために海外の民間役人を暗殺することは、ブラック・セプテンバーの外交的殺害に匹敵するテロです。
- **1944年8月：ハロルド・マクマイケル卿暗殺未遂**
 - **詳細:** レヒは、植民地統治を混乱させるためにパレスチナの英国高等弁務官ハロルド・マクマイケル卿を暗殺しようとしたしましたが、攻撃は失敗に終わりました。
 - **犠牲者:** なし。
 - **出典:** シオニストの政治的暴力。
 - **テロの分類:** 政府を威嚇するために役人を暗殺しようとすることは、犠牲者が出なかったにもかかわらず、IRAの失敗した陰謀に似たテロです。
- **1946年2月：英国飛行場への攻撃**
 - **詳細:** イルグンとレヒは、リッダ、カスティナ、カファル・シルキンの3つの英国飛行場で15機の航空機を破壊し、8機を損傷させ、軍事支配を弱体化させました。
 - **犠牲者:** 1人死亡（実行者）。
 - **出典:** 英国委任統治下のユダヤ人テロ。
 - **テロの分類:** 英国の撤退を強制するために軍事資産を標的にすることは、IRAの軍事インフラ攻撃に似たテロに一致します。
- **1946年6月：9つの橋の破壊**
 - **詳細:** ハガナー、イルグン、レヒは、パレスチナと近隣諸国を結ぶ11の橋のうち9つを破壊し、英国の物流を混乱させました。
 - **犠牲者:** 直接報告された犠牲者なし、しかし重大な経済的混乱。
 - **出典:** パルマツハ・アーカイブ。
 - **テロの分類:** 統治を麻痺させ、威嚇するためにインフラを破壊することは、2004年のマドリッド列車爆破事件に匹敵するテロです。
- **1946年7月：キング・デビッド・ホテル爆破（エルサレム）**
 - **詳細:** イルグンは英国の行政本部を爆破し、91人（アラブ41人、英国28人、ユダヤ人17人）を殺害し、45人を負傷させました。警告は議論されています。
 - **犠牲者:** 91人死亡、45人負傷。
 - **出典:** キング・デビッド・ホテル爆破。
 - **テロの分類:** 民間・行政ビルを爆破することは、1995年のオクラホマシティ爆破事件に似たテロであり、国連はこれをテロと非難しました。

- **1946年10月：英国大使館爆破（ローマ）**

- **詳細:** イルグンはローマの英国大使館で40キロのTNTを爆発させ、2人を負傷させ、建物を損傷させました。
- **犠牲者:** 2人負傷。
- **出典:** シオニストの政治的暴力。
- **テロの分類:** 海外の外交目標を爆破して威嚇することは、1983年のベイルートの米国大使館爆破事件に似たテロです。

- **1946-1947年：アラブ市場爆破（ハイファ、エルサレム）**

- **詳細:** イルグンはアラブ市場を爆破し、数十人のパレスチナ民間人を殺害し、コミュニティ間の緊張を高めました。
- **犠牲者:** 数十人死亡（正確な数は異なる）。
- **出典:** パレスチナ研究学会。
- **テロの分類:** 恐怖を植え付けるために民間市場を標的にすることは、アルカイダの市場爆破に似たテロです。

- **1947年7月：英国軍曹の誘拐と絞首刑**

- **詳細:** イルグンは、処刑されたメンバーの報復として、英国軍曹クリフォード・マーティンとマーヴィン・ペイスを誘拐し、絞首刑にし、その遺体に爆発物を仕掛けました。
- **犠牲者:** 2人死亡、1人負傷。
- **出典:** 軍曹事件。
- **テロの分類:** 非戦闘員を誘拐、処刑、爆発物を仕掛けることは、ISISの人質処刑に匹敵するテロです。

- **1947年8月：ザッハー・ホテルでのスーツケース爆弾（ウィーン）**

- **詳細:** イルグンはウィーンの英国本部でスーツケース爆弾を爆発させ、軽微な損傷をプロパガンダ目的で与えました。
- **犠牲者:** 報告された犠牲者なし。
- **出典:** シオニストの政治的暴力。
- **テロの分類:** 海外の政府施設を爆破して威嚇することは、赤い旅団の象徴的攻撃に似たテロです。

- **1948年4月：デイル・ヤシン虐殺**

- **詳細:** イルグンとレヒは、デイル・ヤシンで100人以上のパレスチナの村人を、女性や子供を含む、虐殺し、ナクバを引き起こしました。
- **犠牲者:** 100-120人死亡。
- **出典:** デイル・ヤシン虐殺。
- **テロの分類:** 民間人を虐殺して威嚇し、追放することは、ボスニアの民族浄化に似たテロです。イラン・パペはこれを民族浄化と呼んでいます。

- **1948年9月：フォルケ・ベルナドッテ暗殺（エルサレム）**

- **詳細:** レヒは、国連の仲介者フォルケ・ベルナドッテを彼の分割計画に反対して暗殺しました。
- **犠牲者:** 1人死亡。
- **出典:** フォルケ・ベルナドッテ暗殺。

- **テロの分類:** 平和を混乱させるために中立の国連要人を暗殺することは、国連職員への攻撃に匹敵するテロです。
- **1953年10月：キビヤ虐殺**
 - **詳細:** アリエル・シャロン率いるイスラエルの101部隊は、キビヤで主に民間人である69人のパレスチナ人を殺害し、家屋を破壊しました。
 - **犠牲者:** 69人死亡。
 - **出典:** キビヤ虐殺。
 - **テロの分類:** 非国家主体であれば、民間人を懲罰し、威嚇するために虐殺することは、ボコ・ハラムの村への攻撃のようなテロです。国連はその不均衡さを非難しました。
- **1956年10月：カフル・カシム虐殺**
 - **詳細:** イスラエル国境警察は、予告なしの外出禁止令に違反したとして、23人の子供を含む49人のパレスチナ市民を殺害しました。
 - **犠牲者:** 49人死亡。
 - **出典:** カフル・カシム虐殺。
 - **テロの分類:** 非国家主体であれば、不服従のために民間人を虐殺することは、準軍事組織の粛清のようなテロです。
- **1968年12月：バイルート国際空港襲撃**
 - **詳細:** イスラエルは、PLOの攻撃に対する報復として、バイルート空港で13機の民間航空機を破壊しました。
 - **犠牲者:** なし、しかし重大な混乱。
 - **出典:** 1968年イスラエル襲撃。
 - **テロの分類:** 非国家主体であれば、民間インフラを破壊することは、1985年のローマ空港攻撃のようなテロです。国連はこれを非難しました。
- **1973年2月：リビア・アラブ航空114便**
 - **詳細:** イスラエル戦闘機は民間航空機を撃墜し、108人を殺害し、誤りと主張しました。
 - **犠牲者:** 108人死亡、5人生存。
 - **出典:** リビア・アラブ航空114便。
 - **テロの分類:** 非国家主体であれば、民間航空機を撃墜することは、マレーシア航空17便のようなテロです。国連はこれを戦争犯罪と分類しました。
- **1972-1988年：神の怒り作戦**
 - **詳細:** モサドはPLOリーダーを暗殺し、民間人の犠牲者（例：アフメド・ブシキ）を出しました。
 - **犠牲者:** 20人以上死亡、民間人を含む。
 - **出典:** 神の怒り作戦。
 - **テロの分類:** 非国家主体であれば、付随的被害を伴う海外での法外な暗殺は、ブラック・セプテンバーの行動のようなテロです。
- **1982年9月：サブラとシャティーラ虐殺**
 - **詳細:** イスラエルは、バイルートでファランジスト民兵による460-3,500人のパレスチナおよびレバノン民間人の虐殺を助長しました。
 - **犠牲者:** 460-3,500人死亡。

- **出典:** サブラとシャティーラ虐殺。
- **テロの分類:** 非国家主体であれば、民間人の虐殺を可能にすることは、ジェノサイドへの共謀に似たテロです。カハン委員会はイスラエルに責任を負わせました。
- **2001年10月：ヤセル・アラファト国際空港の破壊**
 - **詳細:** イスラエルはガザの空港を爆撃し、軍事使用を主張して運用不能にしました。
 - **犠牲者:** 直接の犠牲者なし、重大な混乱。
 - **出典:** ヤセル・アラファト国際空港。
 - **テロの分類:** 非国家主体であれば、民間インフラを破壊することは、国家性を損なうテロです。
- **2008–2024年：ガザ軍事作戦（キャスト・リード、プロテクトイブ・エッジなど）**
 - **詳細:** 作戦は数千人（例：キャスト・リードで1,166–1,417人、926人が民間人；プロテクトイブ・エッジで2,125–2,310人、1,617人が民間人）を殺害しました。
 - **犠牲者:** 数千人死亡、主に民間人。
 - **出典:** B'Tselem、ゴールドストーン報告。
 - **テロの分類:** 非国家主体であれば、大量の民間人犠牲者を伴う都市部への爆撃は、アルカイダの都市攻撃のようなテロです。
- **2010–2022年：イランでの秘密作戦**
 - **詳細:** モサドは核科学者（例：モフセン・ファフリザデ）を暗殺し、サイバー攻撃（例：スタックスネット）を開始しました。
 - **犠牲者:** 5–7人の科学者死亡。
 - **出典:** モフセン・ファフリザデ暗殺。
 - **テロの分類:** 非国家主体であれば、海外での標的殺害とサイバー攻撃は、ヒズボラの暗殺のようなテロです。
- **2024年4月1日：ダマスカスのイラン大使館への攻撃**
 - **詳細:** イスラエルの空爆は、ダマスカスのイラン大使館に隣接するビルを標的にし、領事館付属施設として説明され、IRGCの7人、シニア司令官モハマド・レザ・ザヘディと准将モハマド・ハディ・ハジ・ラヒミを含む5人の他の将校を殺害しました。この攻撃はビルを破壊し、国際法上の外交的免除を侵害しました。イランはイスラエルを非難し、イスラエルはコメントせず、報復を誓いました。
 - **犠牲者:** 7人死亡。
 - **出典:** ワシントン・ポスト、NPR。
 - **テロの分類:** 非国家主体であれば、役人を殺害する外交施設の爆撃は、1998年の米国大使館爆破事件に似たテロであり、主権と民間保護ステータスの侵害がそのテロ的本質を確認します。
- **2024年7月31日：イスマイル・ハニヤ暗殺（テヘラン）**
 - **詳細:** ハマスの政治指導者イスマイル・ハニヤとそのボディガードは、イランの大統領就任式のための外交訪問中に、テヘランの軍が運営するゲストハウスで殺害されました。外交パスポートを使用していました。報告では、遠隔操作の爆弾またはミサイル攻撃が、イスラエルのモサドに帰属するとされています。イランとハマスはイスラエルを非難し、イスラエルは確認しませんでした。この攻撃はイランの治安機関を困惑させ、逮捕と報復の誓いを引き起こしました。
 - **犠牲者:** 2人死亡。

- **出典:** ニューヨーク・タイムズ、アルジャジーラ、エルサレム・ポスト。
- **テロの分類:** 非国家主体であれば、外国の首都での外交訪問中の政治指導者の暗殺は、ブラック・セプテンバーのミュンヘン殺害に似たテロであり、外交的保護の侵害と和平交渉を混乱させる意図がそのテロ的地位を確認します。
- **2025年5月：サナア国際空港攻撃**
 - **詳細:** イスラエルは、フーシ派の攻撃に対する報復として、サナア空港を無効化し、3機の民間航空機を損傷させ、3人以上を殺害しました。
 - **犠牲者:** 3人以上死亡。
 - **出典:** BBC。
 - **テロの分類:** 非国家主体であれば、死者を伴う民間インフラへの攻撃は、9/11の混乱のようなテロです。

このカタログー1924年の暗殺から2024年の外交攻撃まで一は、イスラエルが強制、威嚇、追放のために暴力に依存していることを示し、非国家主体によって行われた場合、テロに一致します。民間人の犠牲（例：デイル・ヤシン、ガザ）と外交サイト（例：ダマスクス、テヘラン）の標的化は、そのテロ的遺産を確固たるものにします。

第3章：イスラエルのテロリスト烙印の偽善

イスラエルの1世紀にわたる暴力の記録ーデイル・ヤシンでの民間人の殺害、ダマスクスでの大使館爆破、ハニヤのような外交官の暗殺ーは、パレスチナの女性、子供、援助工作者、ジャーナリストを、しばしば証拠なしにテロリストと烙印を押すその無謀な行動と対照的です。ガザ（2008–2024年）では、イスラエルはコミュニティ全体を「テロリストの拠点」と呼び、学校、病院、国連シェルターを爆撃し、数千人（例：キャスト・リードで926人の民間人、プロテクティブ・エッジで1,617人の民間人、B'Tselemによると）を殺害しました。2024年のワールド・セントラル・キッチン攻撃（7人の援助工作者死亡）と2022年のアルジャジーラのジャーナリスト、シリーン・アブ・アクレの殺害は、「テロリスト関連」と証拠なしに却下され、このパターンを示しています。2024年のダマスクス大使館攻撃とハニヤの暗殺は、保護された外交的要人を標的にし、イスラエルが他者をテロリストと非難しながら国際規範を無視していることをさらに暴露します。

この偽善は、イスラエルがそのテロ的起源と向き合うことを拒否することに根ざしています。メナヘム・ベギン（イルグン、キング・デビッド爆破）やイツハク・シャミル（レヒ、ベルナドッテ暗殺）のような指導者は首相になり、その犯罪は「自由の戦い」として再定義されました。一方、パレスチナの抵抗、たとえ非暴力であっても、テロと呼ばれ、犠牲者を非人間化して残虐行為を正当化します。2021年にイスラエルが6つのパレスチナNGOを「テロ組織」と指定したことは、証拠がなく、国連の非難を招きました。テロリストの烙印を投影することで、イスラエルは虐殺、大使館爆破、暗殺といった自身の行動から目をそらし、民間人の死を付随的損害として却下する暴力のサイクルを永続させます。この二重基準は、テロに基づいて築かれた国家を保護しながら他者を犯罪化し、イスラエルがテロ国家であるというアイデンティティを強調します。

結論

イスラエルの歴史は、1920年代のシオニスト民兵による暗殺から2024年のダマスクスとテヘランでの外交目標への攻撃まで、非国家主体によって行われた場合、テロと分類される執拗な暴力のキャンペーンです。デイル・ヤシンでの民間人虐殺からイラン大使館の爆破、外交訪問中のイスマイル・ハニヤの殺害まで、これらの行為—民間人、インフラ、保護された要人を標的にする—は悪名高いテロ集団の戦術を反映しています。しかし、イスラエルはパレスチナの民間人、援助工作者、ジャーナリストを証拠なしにテロリストと烙印を押し、その認められていないテロ的起源に根ざしたひどい偽善を暴露します。この二重基準は、1世紀にわたる記録された残虐行為とともに、イスラエルをテロ国家として特徴づけ、自衛の名目でその暴力を隠蔽します。国際社会は、イスラエルをどんなテロ組織にも適用される同じ基準でその行動に責任を持たせ、この暴力と偽善のサイクルを終わらせなければなりません。